

心かかえ

題字／旭岡聖順

第19号

平成25年9月1日

(公財)佐野市民文化振興事業団
栃木県佐野市田沼町974-1
佐野市文化振興課内

電話 0283-62-9554

<http://kagayaki.sanocity.jp/>



『記憶の彼方から』 作・吉川勉之

主な記事

- | | | | |
|-------------------|---|------------------|---|
| ● 理事長あいさつ 太田哲夫 …… | 2 | ● 公益化して変わりました …… | 6 |
| ● 識者コラム 小野行雄 …… | 2 | ● 公益財団紹介 No.1 …… | 6 |
| ● 平成24年度事業報告 …… | 4 | ● 助成事業について …… | 7 |
| ● 平成25年度事業計画 …… | 5 | ● 美術館へ行ってみよう …… | 7 |
| | | ● これからの事業 …… | 8 |

理事長あいさつ

ロンドンで感じた文化



公益財団法人

佐野市民文化振興事業団

理事長 太田 哲夫

四月の下旬にロンドンを訪れる機会があった。佐野市に本部を置く日本クリケット協会の主催により、日本でのクリケットの試合開催一五〇周年を記念して、男子・女子の日本代表が、ロンドンやエディンバラなどで現地チームと親善試合を行うことになり、「クリケットのまち佐野」サポータークラブ委員会の有志と共に、私もロンドンの名門クラブチームとの試合観戦と昼食会に参加した。私のロンドン訪問のもう一つの動機に20、21世紀の現代美術を展示する「テートモダン」の見学があった。当館では、昨年わが国の世界的な前衛芸術家「草間彌生」の特別展が開催されており、丁度アメリカのポップアートを代表する「ロイ・リキテンスタイン」の特別展が開催中で、週末の金・土曜日は午後10時まで開館されていることが分かった。ロンドンに到着した当日、思い切ってタクシーを飛ばして「テートモダン」に駆け付けた。素晴らしい作品の数々に出会い眠気も吹き飛んだことを思い起こしている。



テート・モダン (Tate Modern) は、ロンドンのテムズ川畔にある国立の近現代美術館。テート・ブリテンなどとともに、国立美術館ネットワーク「テート」の一部をなしている。元は火力発電所だった建物を改造して使用。

写真提供 ©joyphoto.com

特別展の入館料は12ポンド (円安のため約1800円) であったが、複数階の常設展示は入場無料であった。有名な「大英博物館」を始め「ナショナルギャラリー」等々、ロンドンは世界的な質と量を誇るミュージアムの宝庫であるが、入館料は無料で、国の支援及び人々の寄付によって運営されているとのことである。元々貴族や大資産家のコレクションが寄贈されて設立されており、広く市民の文化に対する感性を高めてもらうため、入館料が無料になっているようである。

短時間の滞在で語るべき資格もないが、ビートルズのアビー・ロード・スタジオが今でも人気のスポットになっているなど、歴史と伝統に加えて新しい時代に向き合う英国文化の底力を体感した旅であった。

コラム

子供の頃の経験



日時計作家

小野 行雄

十数年前になりますが、こどもの国に自作の日時計を設置させていただきました。そして時が過ぎ、昨年は八月に佐野未来館の二階の市民ギャラリーで「日時計展」、今年の五月四日には「こどもの国」で小学生を対象に日時計ワークショップを開催しました。

近頃佐野との関わりが急に増えたのは昨年三月の定年退職で何時でも動けるようになったことと、そしてもう一つの理由は、小学校や中学時代のクラス会で同級生に会う機会が増え、何かあると直ぐ協力してもらえることによります。

生まれてから中学一年までは大祝町で育ちました。周りには竹製品・木工品・下駄・せんべい・

※草間彌生(くさまやよい)は、昭和四年(一九二九年)長野県松本市生まれ。作品創作、小説執筆、自演映画制作など、現代美術の先端を行く草間氏の独創性は、国際的に高く評価されている。(松本市のホームページより)

※ロイ・リキテンスタイン(一九二三年〜一九七九年)は、アメリカ合衆国の画家。アンディ・ウォーホルとともにポップ・アートの代表的な画家。(ウィキペディアより)

大八車・ノコギリ・アイスクャンデーなど様々な物を作り売る店が並んでいました。

例えばノコギリ屋さんでは、入口の敷居に腰掛けて仕事の様子をよく見ていました。鉄の塊をフイゴ付のコークス炉の中で真つ赤に焼き、アンビル(金床)の上に置いてハンマーで叩き延ばすところや、延ばした鉄板を削り出して平滑な薄い板にし、更に木の板に挟み小さなヤスリを数種用いながら目立ての加工、横引き刃の反り付けなど、物や道具を作る工程が不思議でなりませんでした。

また、珠算教室に通っていた頃には、隣の敷地で鋳物用の砂型作りを見ていました。二つに分かれた箱に砂が詰められ、半身の木型の形が凹型に作られて砂の表面に黄土色の液体が塗られ、庭で乾燥されていました。

冬が近づくと、子供たちの遊びは風揚げやコマ回しになります。子供たちは木工旋盤の職人の所に行き、桜材を削り三色の色を付けて特注?のコマを作ってもらいました。ちなみに、値段は大きさによって二〇円から五〇円くらいだったと思います。

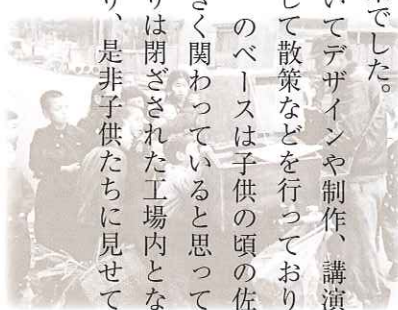
春からは、城山公園の桜まつり、秋山川での蛍狩りや花火大会、夏休みが始まると直ぐの佐野祭りには御神輿や山車の市内巡行があり。小学校の宿題の絵日記の始まりはいつも「佐野祭り」と決まっていました。

中学二年から高校三年は若松町で過ごしました。その頃は七夕祭りが盛んで、家の前の狭い大正通



りは七夕飾りで埋め尽くされとても壮観でした。準備の二週間ほどは家族総出の花飾り作りとなり、数部屋が占領される始末でした。

私はいま日時計についてデザインや制作、講演やワークショップ、そして散策などを行っており、ですが、この「物作り」のベースは子供の頃の佐野での様々な経験が大きく関わっていると思っています。最近の物作りは閉ざされた工場内となりました。機会をつくり、是非子供たちに見せてあげてください。



小野行雄(日時計作家・環境造形作家)

- 一九四六年 栃木県佐野市生まれ
- 天明小学校、城東中学校、県立佐野高等学校卒業
- 日本大学生産工学部建築工学科卒業
- 東京造形大学教授(二〇一二年三月退職)
- 現在 新制作協会会員、日本日時計の会会員、英国日時計協会会員
- 受賞 第九回国民文化祭審査員奨励賞、aaca賞特別賞(日高單也氏・山本誠氏との共作)、第七回国際日時計コンテスト、プロ部門一位(イタリア)作品「二面日時計」佐野市こどもの国ほか多数

作家たちによる展覧会

文化会館事業係長

川田 夏実



佐野市文化会館で開催される現代美術の展覧会『R293美術展』は、今年度で三年目を迎えます。

この展覧会は、地元での作品発表の機会を望んだ作

家たちと、文化施設の積極的な活用を望んだ市と指定管理者のベクトルが一致したことから始まります。作家の主體的な活動との協働から始まったこの展覧会には、キュレーターが存在しません。キュレーターとは、展覧会を企画・運営し、展示作品の選定を行う専門職員です。本来キュレーターが行う仕事の数々をR293美術展では全て作家が行っています。月に二度のペースで開かれる会議では、美術展詳細についてを中心に、広報や会場準備、開催イベント等についても話し合われます。

キュレーターの重要な仕事のついに「展覧会のテーマを設定する」ということがあります。R293美術展では今のところ、このテーマの設定をしていません。作品を出品するのも、出品する作品を制作するのも、会議に参加している作家二人ひとりです。一つのテーマによって集められた作家でも、作品でもありません。全く違う個性を持ち合わせた作家たちが、自分と親しい土地での作品発表を叶えるために月に一度集まり、展覧会を開くのです。

キュレーターもテーマも不在の展覧会『R293美術展』それはまるで、作家たちの大きな一つの作品のようにです。佐野市で生まれたこの大きな作品がどのように変化し、育っていくのか。現代美術の歩みと共に、その息づかいを追っていきたくと思っています。

(佐野市文化施設指定管理者・株式会社ケイミックス)

R293美術展 2014

★平成26年1月29日(水)～2月16日(日)
佐野市文化会館(展示室)

★同年2月5日(水)～11日(火)
佐野市葛生あくとプラザ(ギャラリー)

平成24年度事業報告及び収支決算

平成25年5月14日、21日にそれぞれ開催された、平成25年度第一回通常理事会及び平成25年度定時評議員会において、平成24年度の事業報告並びに収支決算が承認されました。

◆ 演劇鑑賞教室事業

内 容 歌舞伎『毛拔』の鑑賞
期 日 平成24年7月6日(金)
場 所 国立劇場(東京都)
参加者 80人
参加者負担金 6,000円

◆ 企画展共同開催事業

● 吉澤記念美術館「板谷波山と近現代の陶芸」
内 容 板谷波山50回忌記念事業
期 日 平成24年9月15日(土)～11月25日(日)
入場者 2,586人

● 郷土博物館「佐野の狛犬－阿吽の世界－」
内 容 佐野市にある狛犬の紹介
期 日 平成24年10月6日(土)～11月25日(日)
入場者 3,531人

● 美術鑑賞ツアー
内 容 市内の美術館等をまわるバスツアー
期 日 平成24年11月1日(火)
場 所 郷土博物館、吉澤記念美術館、
安藤勇寿「少年の日」美術館
参加者 30人

◆ 芸術・文化活動助成事業

● あそ野短歌会第500回記念交流会
期 日 平成24年4月20日(金)
場 所 マリアージュ仙水
主 催 あそ野短歌会

● ユネスコ協会創立40周年記念
子ども支援募金コンサート
期 日 平成25年5月13日(日)
場 所 佐野市文化会館 大ホール
主 催 佐野ユネスコ協会

● 第20回佐野第九演奏会
("Voice" 設立20周年記念)
期 日 平成24年12月24日(月・祝)
場 所 佐野市文化会館 大ホール
主 催 佐野市民合唱団 "Voice"

◆ 芸術・文化に関する人材育成事業

● 子ども演劇サマースクール
期 日 平成24年7月24日(火)～29日(日)
場 所 葛生あくとプラザ
講 師 加納朋之氏ら文学座等、プロの俳優6名
参加者 40人

● 平成24年度佐野市学校演劇祭
期 日 平成24年9月6日(木)、7日(金)
場 所 葛生あくとプラザ

● アートマネジメント講座
期 日 平成24年12月8日(土)、9日(日)、22日(土)、23日(日)
場 所 葛生あくとプラザ
講 師 松井憲太郎氏(富士見市民文化会館長)
参加者 8人

● 舞台裏方講座
期 日 平成25年1月26日(土)、27日(日)
場 所 葛生あくとプラザ
講 師 龍福孝明氏(宇都宮舞台サービス)
参加者 11人

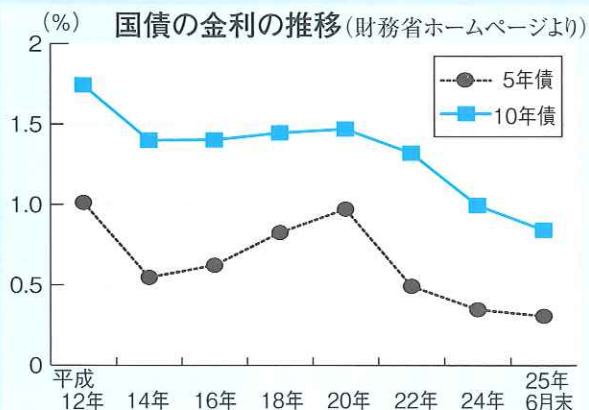
◆ 共通事業

● 事業団報『かがやき』第18号の発行
発 行 平成24年8月1日
体 裁 A4版、6頁
部 数 45,000部(全戸配布)

貸借対照表

平成25年3月31日 現在(単位:円)

科 目	金 額
I 資産の部	
1. 流動資産	3,612,044
2. 固定資産	
(1) 基本財産	502,262,096
(2) 特定資産	430,365,065
(3) その他固定資産	3,745,368
固定資産合計	936,372,529
資産合計	939,984,573
II 負債の部	
1. 流動負債	2,533
III 正味財産の部	
1. 指定正味財産	895,822,596
(うち基本財産への充当額)	(500,000,000)
(うち特定資産への充当額)	(395,822,596)
2. 一般正味財産	44,159,444
(うち特定資産への充当額)	(34,542,469)
正味財産合計	939,982,040
負債及び正味財産合計	939,984,573



この十三年余で、十年国債の利回りは約半分になってしまい、運用益頼みの事業運営にも影響が出始めています。公益目的事業の充実を図るため、十年国債を中心に運用益の確保に努めていきます。

- ① 信頼度 (AA以上)
② 運用対象 (国債、地方債等)
③ 安全性と収益性 (元本回収と高い運用益)

当事業団は、次の三点を念頭に債券を購入して財産の運用を図っています。

財産の運用について

HOME
事業団概要
リンク集
庁舎マップ
お問い合わせ



公益財団法人 佐野市民文化振興事業団

佐野市民文化振興事業団
ホームページリニューアル!

事業・イベント情報を発信していきます。今後は、佐野市にゆかりのある芸術家のページを充実させていきます。

詳しくは、左記URLを！
<http://kagayaki.sanocity.jp/>

☆コンテンツ☆

お知らせ
事業団概要
事業計画と報告
財務諸表
団報 かがやき
各種事業の募集案内
佐野市縁の芸術家たち

平成25年度事業計画

「すべての市民が優れた文化環境のもとで、潤いと活力のある生活を営める地域社会の創造」を目的に、佐野市民の芸術・文化活動の振興を図るため、次の事業を行います。

◆演劇鑑賞教室事業

- 文楽鑑賞教室

◆芸術・文化に関する人材育成事業

- 子ども演劇サマースクール
- アートマネジメント講座
- 舞台裏方講座

◆芸術・文化活動助成事業

- 芸術・文化活動助成金
(1団体につき最高15万円交付)

◆企画展共同開催事業

- 吉澤記念美術館
アートリンクとちぎ2013 古川龍生展
期 日 平成25年7月13日(土)～8月18日(日)

●美術鑑賞ツアー

〔行程〕 ①鑄金展(文化会館)→②東石美術館→③吉澤記念美術館→④安藤勇寿「少年の日」美術館

◆共通事業

- 事業団報『かがやき』の発行
平成25年9月1日発行、市内全戸配布
- 広報誌・インターネットの活用
事業のPRのために、市の広報誌や、新聞、ケーブルテレビ等を活用し、積極的に市民への情報提供を行うほか、ホームページの充実を図り、事業・イベント情報を随時発信します。



子ども演劇 サマースクール

去る7月23日(火)から27日(土)の5日間、文学座の俳優加納朋之さんから7人を講師に迎えて、恒例の「サマースクール」を寫生あくどプラザで開催しました。

小学4年生から中学3年生の57人が参加。「シアターゲーム」で発声や表現方法などを学び、最終日には大ホールで5日間の稽古の成果として、井上ひさし作『水の手紙』を発表しました。

参加者からは、「みんなで間違えずにできていい思い出。(文学座の)先生たちみたいに、もっと気持ちを込めて演じられるようになりたい」などという声があり、大変好評でした。

※小中学校学校演劇祭への協力
当事業団では、9月の学校演劇祭に文学座の俳優お二人を審査員として派遣しています。



(公財)佐野市民文化振興事業団
評議員・役員一覧 (順不同)

評議員会

評議員	旭岡 靖人
評議員	大 芦 宏
評議員	落 合 一 義
評議員	片 柳 展 代
評議員	島 田 嘉 内
評議員	渡 邊 昭

理事会

顧問	岡 部 正 英
理事長	太 田 哲 夫
専務理事	落 合 正
理事	小 野 ナ ツ
理事	菊 池 宏 行
理事	佐 野 正 行
監 事	金 尾 富 司
監 事	田 沼 穰
監 事	寺 岡 篤

事業選考委員会

アドバイザー	松井憲太郎
評議員	旭岡 靖人
評議員	片 柳 展 代
学識経験者	國 分 三 郎
学識経験者	岩 船 哲 也
市産業文化部長	慶 野 昇

法律の改正により、日本中の財団が大きな変化に直面しました。中でも公益財団は最も高いハードルをクリア出来るように事業そのものを見直すことになりました。

当事業団の目的は「市民の芸術・文化活動の振興及び芸術・文化活動への啓もう啓発を図り、すべての市民が優れた文化的環境のもと、潤いと活力のある生活を営める地域社会の創造に寄与する」ことにあります。

☆子ども演劇サマースクール

小中学生を対象に、文学座の俳優を中心にした講師陣が指導するワークショップ。

七月下旬に五日間にわたって、葛生あくどプラザで行なっています。シアターゲーム

で身心を解放し、最後の二日間には脚本を読みながらの成果発表をします。

☆歌舞伎等鑑賞教室

歌舞伎や文楽などを初めての方

にも気軽に楽しめるように、国立劇場で、出演者による生の解説や手引き付きでご覧いただきます。

☆人材育成のための講座

アートマネジメント講座では、当事業団のアドバイザーでもある埼玉県のキラリ☆ふじみ(富士見市民文化会館)館長の松井憲太郎氏を講師に、また舞台裏方講座では佐野市文化会館の龍福孝明氏を講師にお招きして、それぞれ開催しています。

☆学校演劇祭への協力

市内小中学校の演劇祭に、文学座の俳優を審査員として派遣し、プロの目で県演劇祭出場校を審査して頂きました。昨年は葛生小、城北小、犬伏東小が見事入賞しました。

公益化して変わりました

これから毎号、近隣の公益財団を紹介して行きます。第一回は、佐野市内にある「三好園」さんです。

三好園

所在地 佐野市田沼町362
電話 0283-162-5497
<http://www.sankouen.org/>

【沿革】一九一一(明治四四)年、当園の礎である「夢沼慈善団」設立、一九一九(大正八)年に財団法人三好園と改組、二〇一三年公益財団として認定。

【目的】将来社会に貢献し得る有用の人材を育成するとともに、考古資料の収集、保管、展示、貸し出しを行う等によって文化の振興に寄与すること。

【事業概要】当園は平成二三年に創立一〇〇周年を迎え、本年四月より「公益財団法人」へ移行、現在二つの事業を実施しています。



◇将来社会に貢献し得る有為な人材を育成するため、大学生に奨学金を貸与する育英事業。当園の奨学金が「給付」ではなく「貸与」とするのは、学資金を出す側も受ける側も対等であるという創立以来受け継がれてきた精神に基づくものです。返還さ

れた育英資金が次の有為な学生へ貸与されていく『返還の意義』を重んじています。

◇昭和四九年に設立された三好記念館。近隣商業施設建設のため、平成二〇年に建物を取り壊され閉館するまで、地域文化の発展に貢献してきました。現在は、佐野市文化会館展示室を借用し、「旧三好記念館コレクション蔵品展」と題し、収蔵している陶磁器の展示・公開が文化事業活動の中心です。

来年一月には、足利市立美術館の一部のスペースを借用し、収蔵品を公開する予定です。今後も、公益財団としての役割を果たせるよう、人材育成への援助及び地域文化の振興に努めて参ります。当園の詳細はホームページをご覧ください。



伊万里色絵牡丹文茶筌形徳利



伊万里染付吹墨白兔文皿

助成事業

コール・アザレア
三十周年コンサート



平成二十五年度の助成事業では、女性コーラスを支援しています。コール・アザレアは一九八一（昭和五六）年に発足し、お母さんコーラスとして栃木県や関東支部大会などへ何度も出場するとともに、福祉施設への訪問演奏を行なうなど、積極的な取り組みが今後大いに期待できる団体です。

団長の三田陽子さんはご挨拶の中で「指揮の渡辺和子先生、ピアノの中田道子先生のご指導のもとで、家族の“愛”にも恵まれ、これまで歌ってこられた喜びと幸せを、体いっばい感じております」と話していました。



東石美術館

「生命の輝き—高村光雲と木彫の世界—」

10/4(金)～12/18(水)

栃木県佐野市本町2892

TEL. 0283-23-8111

<http://www.toseki.com/museum/museum.htm>

安藤勇寿「少年の目」美術館

「ふるさとの詩展⑥」

9/4(水)～12/25(水)

栃木県佐野市御神楽町623-1

TEL. 0283-67-1080

<http://www4.ocn.ne.jp/~shonen/>

とちぎ蔵の街美術館

「谷内六郎展—あの頃への帰り道—」

8/10(土)～9/29(日)

栃木県栃木市万町3-23

TEL. 0282-20-8228

<http://kuramuseum.com/>

美術館へ

行ってみよう

足利市立美術館

「石田徹也展」

9/7(土)～10/27(日)

栃木県足利市通2-14-7

TEL. 0284-43-3131

<http://www.watv.ne.jp/~ashi-bi/>

群馬県立館林美術館

「山口晃展」

2014
10/12(土)～1/13(月・祝)

群馬県館林市日向町2003

TEL. 0276-72-8188

<http://www.gmat.gsn.ed.jp/>

平成26年度
助成事業募集

当事業団では、芸術・文化活動や伝統文化の保存継承を支援しています。

地域の特色を活かし、個性豊かな地域文化を創造する事業で将来性のあるものなどで、何十周年記念という規模の大きなものも対象となります。

但し、行政からの補助を受けているものや、企業や学校のサークル・部活動は対象外です。

その他の要件はお問合せ下さい。

◆応募期限

平成25年11月29日（金）

◆応募方法

所定の用紙で提出します。

◆問合せ先

事業団事務局 佐野市民文化振興課（田沼庁舎本館2階）

☎ 62-9554



今からでも間に合います

事業団の事業に参加してみませんか?

お申込みは (公財) 佐野市民文化振興事業団
栃木県佐野市田沼町974-1
TEL 0283-62-9554
FAX 0283-62-8929

アートマネジメント講座

文化芸術がまちを元気にします。3.11大震災の被災地でも、疲れた人々の心を音楽や美術が癒してくれています。事業団では、舞台芸術界での第一人者で当事業団アドバイザーでもある松井憲太郎さんを講師に迎え、その「処方箋」を学びます。



と き：11/23(土)、24(日)、30(土)、
12/1(日)いずれも13時30分から

ところ：佐野市文化会館

募集：20名(高校生以上)

参加費：無料

定員になり次第締切

美術鑑賞ツアー

市内の美術館を巡る小さなバスの旅です。特に今年は、2年に一度開催の「ルネッサンス鑄金展」も見学できます。美術館では説明付です。

と き：11/6(水)13時~17時30分(予定)

集合：佐野市文化会館

募集：市内にお住まいの方 44名

参加費：無料

定員になり次第締切



行程

①鑄金展(文化会館)→②東石美術館→
③吉澤記念美術館→④安藤勇寿「少年の日」
美術館

舞台裏方講座

舞台は光り輝く場所ではありません。優れた舞台は、袖や奥が広いと言われます。舞台の裏を支えているのは多くの音響や照明や幕、そしてそれらを操るスタッフです。あなたも、そんな舞台の裏側をのぞいてみませんか。

2014年

と き：1/18(土)、19(日)

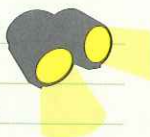
ところ：葛生あくとプラザ

募集：15名(高校生以上)

参加費：無料

講師：龍福孝明氏(文化会館スタッフ)

定員になり次第締切



◆文楽の鑑賞◆

初めての方にお勧めです。国立劇場で出演者による解説や丁寧なガイドブック付き。財団職員添乗の大型バスで国立劇場へ直行、昼食付きでゆっくりご覧いただけます。



演 目：9月中に決まります。

と き：12/6(金)

文化会館前を8時20分出発、
15時30分帰着予定。

ところ：国立劇場(東京)

申込み：往復ハガキで事業団事務局へ
1枚に2名まで可(氏名、住所、
年齢、電話番号を明記)

対象：市内にお住まいの方

募集：40名 応募者多数の場合には抽選

参加料：6千円(鑑賞料、昼食代等全込)

申込期限：9月30日(月)必着

編集後記

表紙の絵は、佐野市在住の造形作家・吉川迪之(よしかわみちゆき)氏の作品から。ドーサ引き(にじみ止め)していない和紙に油煙墨、金泥、胡粉(ごふん)、コラージュを施したものがある。作品に見える黒い線のようなものは、和紙に墨を流したあと、その輪郭を残すようにして胡粉を塗りこんだことで表れたものである。

氏は東京都生まれ、多摩美術大学卒。一九九五年(平成七年)に佐野市(旧田沼町)に住まいを定め、木材やシルクスクリーン、陶器、紙など、様々な素材を使った作品を創り出してきた。今後の活躍を期待したい。

※今号から、公益財団としての双方向性を意識して紙面の刷新を図りました。ご感想をお寄せ下さい。